論文の内容の要旨

論文題名
食道扁平上皮癌における KLF4 発現に関する臨床病理学的検討

掲載雑誌名
昭和学士会誌　2021 年　掲載予定

医学研究科 病理系 臨床病理診断学専攻 博士課程　北島　徹也

内容要旨
【背景・目的】Kruppel-like factor 4(KLF4)は生体内の様々な組織で発現する転写因子であり,細胞周期の抑制という点から癌抑制遺伝子として,アポトーシスの抑制という点から癌遺伝子として働く二面性が知られている.今回,食道扁平上皮癌の病理組織検体を用いて,KLF4 の発現とその組織学的悪性度との関係性について検討した.
【方法】昭和大学病院において,食道扁平上皮癌に対し外科的に切除された 88 症例を対象とした.切除検体を用いて KLF4 と p53 の免疫染色を行い,その発現率と臨床病理学的特徴(腫瘍径,分化度,深達度,リンパ管・静脈侵襲,リンパ節転移の有無,進行度)について比較した.
【結果】食道扁平上皮癌組織での KLF4 の発現率は 51.1%(45/88)であり,正常食道粘膜組織での発現率 88.6%(78/88)と比較すると,その発現率は低い傾向にあった.また,浸潤癌やリンパ節転移症例では,有意差をもって KLF4 の発現率の低下がみられた.一方で,食道扁平上皮癌組織での p53 の発現率は,臨床病理学的特徴との有意な相関関係はみられなかった.
【考察】今回の検討では,食道扁平上皮癌における KLF4 の発現と悪性度との間に相関がみられた.即ち,進行した食道扁平上皮癌組織では有意に KLF4 発現量が低下しており、食道においては,KLF4 の癌抑制因子としての側面が見いだされた.